

# 〈暴力〉から問う

19-20世紀ロシア文化における暴力表象の横断的検討

## 【報告】

### I. ロシア帝国と暴力なるもの

上村 正之 (北海道大学大学院・博士後期課程)

「叙事詩的であること、暴力的であること  
——ゴゴリ『タラス・ブーリバ』の受容史をめぐって」

深瀧 雄太 (京都大学大学院・博士後期課程)

「レスコフにおける暴力の諸相」

大崎 果歩 (東京大学大学院・博士後期課程)

「レフ・トルストイにおける暴力とキリスト教」

### II. 「戦争と革命の世紀」再考

田村 太 (京都大学大学院・博士後期課程)

「世紀転換期の「暴力論」とサヴィンコフ/ロープシン」

松元 晶 (北海道大学大学院・博士後期課程)

「戦う「周縁」——中央アジア映画に見る戦いの表象」

大月 功雄 (立命館大学大学院・博士後期課程)

「ロシア映画理論と戦争映画

——今村太平の記録主義リアリズムをめぐって」

## 【コメント】

越野 剛 (慶応義塾大学・准教授) 平松 潤奈 (東京大学大学院・准教授)

【日時】2024年1月27日(土)13時より

【形式】対面・オンライン併用開催

【会場】北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター  
大会議室 (403)

参加費無料・事前登録制

対面参加/オンライン視聴するためには事前登録が必要です。

二次元コードまたは下記URLからお申し込みください。

<https://forms.gle/FyopZVaYGGJuaRAq8>

【お問い合わせ】 tamura.futoshi.75x@st.kyoto-u.ac.jp (田村)

